令和6年度福島市社会福祉審議会 第2回児童福祉専門分科会 議事録

日 時	令和6年7月29日(月) 13時30分～15時00分
場 所	福島市保健福祉センター 大会議室
出席者	<p>【13名/17名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島学院大学 福祉学部 学部長・教授 田辺 稔 委員 ・桜の聖母短期大学 准教授 長谷川 美香 委員 ・福島市要保護児童対策地域協議会 遠藤 嘉邦 委員 ・福島市私立認可保育施設連合会 副会長 小賀坂 清子 委員 ・(一社)福島市私立幼稚園協会 理事 細谷 實 委員 ・福島地区小・中学校長会協議会 山本 巖 委員 ・福島市学童クラブ連絡協議会 会長 山田 和江 委員 ・未就学児保護者代表 木田 修作 委員 ・福島市民生児童委員協議会 主任児童委員連絡会 会長 古関 久美子 委員 ・(一社)福島県助産師会 常務理事 津田 裕子 様 ・連合福島 福島地区連合会 議長 菅井 謙一 委員 ・特定非営利活動法人ビーンズふくしま 副理事長 江藤 大裕 委員 ・福島市青少年健全育成推進会議 副会長 藤原 聡 委員
内 容	
<p>1 開会</p> <p>2 福島市こども未来部長 あいさつ</p> <p>3 議事(議長:田辺稔委員)</p> <p>(1)「福島市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況について(令和5年度) 資料1</p> <p style="padding-left: 2em;">※事務局より説明</p>	
<p>【質疑応答】</p> <p>●細谷委員</p> <p>「福島市子ども・子育て支援事業計画」は5年間で見直しを行うものであり、毎年進捗状況の説明を聞いているとほぼ達成している。しかし、以前も申し上げたが進捗状況と支援事業等を行った効果はどうだったのかという検証がこれからとても大事だと思っている。目標を達成できたこと＝その効果も上がったという捉え方は少々違うのかなと思っている。</p> <p>例えば、「8 子どものえがお条例の制定」は、まだまだ福島市においては、市民への周知が不足していると思う。ここに記載のある「日本子育て支援大賞受賞」は素晴らしいことだ。この要因は福島市でやっている各幼稚園、認定こども園に対する特色ある幼児教育の実践だと思う。他の自治体にはない取り組みのため評価されて、この賞に結びついた。説明でもあったが、日経新聞の「子育てしやすいまちランキング2023」で一気に順位が上がり、東北1位、仙台市と並んで全国で8位。これは官民一体で進めている「未来への子育てエール運動」という取り組みが評価された。あくまでも第三者的な評価でこういう受賞がある。だが、これが果たして実態として、どのように市民が受け止めているかが最も問題だと思う。そこをどうやって検証するかだと思う。</p>	

先週、資料として速報をお送りいただいていた。これは後から説明があるようだが、やはりアンケートの速報を見ても、福島市における子育ての環境や支援の満足度についての部分で全く満足していないというのが10%弱ある。また、あまり満足していないと合わせるとまだ4割くらいある。進捗状況も大事だが、果たして費用対効果的にその事業をやって、どれだけ市民にとって効果があったか等を検証して、次の5年毎の施策に役立てていくということが大事だと思う。皆さんもご覧になったかもしれないが、2024年の7月17日付けの日経新聞で、エビデンス不全、増やした保育所4割余る、政策硬直、需要とずれ、無駄生む甘い見通しという記事。過去5年間に834自治体が待機児童解消ということで、保育定員を増やしたほぼ全国で待機児童の解消ができて、福島市も潜在的待機児童を除いて解消できている。しかし、これを見ると834自治体で増やした枠283の自治体がまだ空いているという。半分以上空いているというのが166で、合計449。ほぼ半分が結局造ったものの何も役に立っていない。さっきの進捗状況を見ても、やはり保育所の方がほぼ9割以上はクリアしているようだが、若干見通しよりは少なくなってきた。特に都市部辺りはどんどん保育所の空き教室が目立ってきている。間違いなくこの波は福島市にも来るのではないかと考えている。是非今後は進捗状況、そして5年間終わった後どういう効果があったかという検証をして、それをやはり教えていただけるとありがたいと思っている。あとは検証のことなので、どう今後考えるのかもお聞かせいただきたい。

それと、誤解を招くといつも私は言っているが、5ページの「幼児期の教育・保育施設の進捗状況」の中の認定区分、2号認定で利用できる施設・事業が「認可保育所・認定こども園」になっている。これを知らない人が見ると幼稚園に行けないと思ってしまう。何故ここに幼稚園を入れられないのかと前にも言った。実際に2号認定で幼稚園に行く人はいる。親の判断で3歳になったら共働き世帯でも幼稚園に入ることができる。この間、共働きしていると幼稚園は入れないと認識している親がいた。何故ここに幼稚園と入れられないのかを是非教えていただきたい。

○事務局

1件目の進捗状況並びに効果検証すべきというご意見、大変ありがたい。今までアンケート調査で生の声を聞けなかったが、子どもたちの生の声を聞くという形で、この間、高校生・大学生・若者を対象にワークショップを初めて開催させていただいた。若者の意見として、福島市はいい子育て支援策を行ってやっているので、それがわからなかったという意見があった。例えば、奨学金などはわからなかったということで、そういった制度があれば保育士になりたいといった声もあった。これから小学校・中学校の子どもさんたちにも生の声を聞く機会をとって、その声を計画に反映させられるようにしていきたい。もう少しお時間をいただき、進捗状況に対する効果検証をしていきたいと考えている。

また、併せて福島市の総合計画の中でもアンケート調査等も行っており、LINE調査等も実施している。今後もそのように様々な機会を捉えて、市民の皆さんのご意見を聞くような機会を設けていきたいと考えている。

費用対効果については、保育所等が余っているのではないかとというようなご意見もあったが、今になって余っている、余裕ができていくというのは間違いなくあるかと思うが、その当時はやはり必要だったものではないかと考えている。今後その施設の活用も含めて、福島市では再編計画ということで、古い保育所等も多いため、調整を図りながら進めていきたいと考えている。

資料5ページの2号認定について、こちらの資料に出させていただいた数値は、表左側に記載した区分に応じた数値であり、あくまでも法律に基づいて国に報告するような時の数字ということと捉えて、こちらに載せているためご了解いただきたい。

●細谷委員

この資料を見ると、保育所では一時預かりをしていないように見えてしまう。米印でもつけて、説明を入れるなど対応して欲しい。

また、保育所の空き教室については、当初の予想はそうだったかもしれないが、データ（EBPM）に基づいて今後は検討していく必要がある。この前福島市議会の議員が、少子化だから幼稚園は大変と言ったものの、ところで去年福島市で出生数何人だったかわかるかを聞いたところわからないとのことだった。どのくらいだと思うかと聞いたら2,000人くらいではないかと答えた。昨年は、1,423人、一昨年は1,576人と伝えるとびっくりしていた。市議会議員でさえ、少子化という言葉を使うものの現状をわかっていない。それで根拠に基づく政策とか施策を提案することができるのかと思った。日本の2023年の出生数も80万人割って72万人。ところが10年前の見込みは130万人産まれる予想だった。これだけ誤差がある。それはまさに保育所の教室も同じだと思う。市民の税金使ってやるわけだから、そこをしっかりとEBPM的な考えで、今後切り替えてやっていかなければならないと思う。それを早くどこの自治体がやるか。特にこういう教育とか子育て支援・応援については検証して、費用対効果を是非福島市が、県内の県庁所在地として一番先に実践してもらいたいなという思いがあってこういう話をさせてもらった。ご理解いただきたい。

●菅井委員

「7 子ども貧困対策の充実」というところで、隣に関係する委員がいるので少々言い難いですが、子ども食堂が増えたということが、果たして本当に貧困対策が充実していると言えるのか。確かに対処としてはいいのかもしれないが、それで子ども食堂を利用することが増えているということは、逆に貧困が拡大しているとも捉えられるわけであり、やはり子どもの貧困の原因としては親の収入の減少といったこともあると考えられるが、こども未来部だけで解決することができるものではないが、是非、他の部署と連携して、貧困の根本を解消できるような対策をしていただきたい。

○事務局

ご意見として承り、庁内全体で貧困対策をしていきたい。

4 報告事項

●議長

委員の皆様にご了解いただければと思うが、次の（１）のアンケート調査結果について、これは今の事業計画等の内容に繋がるものである。お手元の資料はボリュームがあり、おそらく皆様の関心の高いものだと思う。ご了承いただければ、最初に（２）、（３）の人数等についてご報告いただき、アンケート調査結果の方についてはこれらが終わってから触れていければと思うがよろしいか。

●各委員

異議なし。

（２）放課後児童クラブの待機児童数について **資料3**

※事務局より説明

（３）放課後児童クラブの増設等について **資料4**

※配布資料

【質疑応答】

特になし

（１）（仮称）福島市こども計画に係るアンケート調査結果について（速報値）

資料2-1 **資料2-2**

※事務局より説明

●議長

今回は速報なので、より詳しい内容等に関してはまた次回か。

○事務局

次回の8月下旬に開催する際に、より詳しいアンケートの報告はさせていただく。

●長谷川委員

先程、細谷委員のお話からも出たように、資料1にも載っていたが、「子育てしやすいまちランキング2023」で東北1位になっていて、すごく輝かしい賞をいただいているのに、資料2-1の7ページ、子育て環境や支援の満足度の速報値を見ると、残念ながらまだ「ふつう」とか「あまり満足していない」という声が多い。実際は市内で子育てしている方はそんなに満足していないのかなということで、ちょっと残念に思った。8ページを見ると経済的な支援を重要だと思っているという答えが1番になっているが、これはなんとなく予想できるというか、おそらく福島市に限らず、他の地域の子育て家庭も経済的支援は同じような調査したら、上に来るとは思

ったため、今後、間接的なのか直接的なのか、何かしら経済的支援については検討しなければならないかもしれない。ただ、少子化や子育て支援の政策のニーズは、恐らく保護者の家族構成や保護者自身の年齢、もちろん子どもの年齢も世帯の年収も、それで少しずつ変わってくるのではないかなとも思う。そのため、それらを踏まえて今後計画しなければならないだろうと思った。

経済的支援というと、将来の経済的な見通しが良くないと、そもそも結婚しない。子どもを持たない若い世代もいるかもしれないので、資料2-2でも、参加者からの声に、お金もかかるし子育ては大変そうとか、やりたい仕事がないとか、2-1の25ページの結果を見ても、やはり若い人に対する労働政策なども同時に行っていかなければよくなるだろうというのが改めてこの結果を見て思った。

今後計画をどうするかは、これから本格的に行っていくと思うが、速報値ではあるけれども、少なからず、今後どうすればよいかのヒントはなんとなく見えてきているのではないかなと感じた。

答えている保護者が母か父かというのはわかるのか。保護者ということしかわからないのか。

○事務局

父親か母親かを回答してもらっているため、どちらが回答したかはわかる。

今後、そのあたりも含めて集計を行っていく。

●長谷川委員

なぜそのように思ったかということ、恐らく母親と父親で、子育てで負担となりやすい点や求めている内容は違うのではないかなと思った。例えば、8ページ、9ページに様々な項目が載っているが、男性の育児参加を進めるとか、産前産後のサポートを充実させるとかは、求めている人が少ないが、こうしたところは結構、母親、父親がどのくらい解答しているかで偏りも出てくるのかなとも思ったため、今後それらも踏まえて結果を見たり、分析したりしていくと、より良い計画が出てくるのかなと思いつつ見せていただいた。

●細谷委員

このニーズ調査は1つのエビデンスなので、これを受けてどういう福島市の政策をやっていくかという点が難しい。やはり改めて考えさせられるところがある。

回収数は、国は400件以上あればとのことだが、前回は調査数3,300件に対して1,851件で56%程度回答があった。小学生世帯でも2,900件に対して2,511件で86.9%であった。未就学世帯で子どもが減っているし、子どもがいる世帯数も減っているため、だいぶそういう面では減ったと思う。

以前、市民の望む施策で、経済的負担を減らすことが、未就学児で25.8%あって、今回は49.9%なので随分量が増えたと思えるのがいいのか。前回は、市民の望む施策という設問と、市の取り組みとして現在必要としていること、重要だと思う支援を分けている。その辺の見方が難しいと思う。以前は生活困難想定層と非生活困難想定層に分けて、市の取り組みとして現在重要だと思う支援を分析しているが、今回もそこは分ける予定か。

○事務局

経済的な部分についても、前回同様集計していく予定となっている。

●細谷委員

その方がよいと思ったので是非お願いしたい。大人として考えさせられ、我々がどうしなければならないかということにも繋がってくる。特に結婚や将来の希望について、えがお条例とかもあるのでは是非住み続けて欲しいと思う。

ワークショップはいっぱい来てもらうことが大事。楽しく賑やかにやるということが大事だと思う。私もそういうのが大好きなので、面白いおじさんとかを呼んで、いろんな経験談とかを通して、やはり人生というのは楽しいものだと感じてもらいたい。将来に対してポジティブにすることが大事だとか、そういう思いを、少しでも我々大人ができることをやらないといけない。それをすごく感じさせられたので、協力できることはしたいと思うので遠慮なくお声がけいただきたい。

(4) 条例改正について

- ・福島市児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正 **資料5**
- ・福島市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正 **資料6**
- ・福島市幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正 **資料7**
- ・福島市幼保連携型認定こども園以外の認定こども園の認定の要件を定める条例の一部改正 **資料8**

5 その他

(1) 今後の児童福祉専門分科会の開催について

- 第3回児童福祉専門分科会 令和6年8月28日(水) 13:30から

6 閉会